



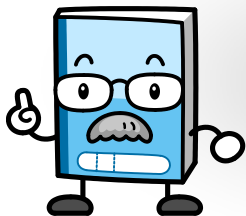
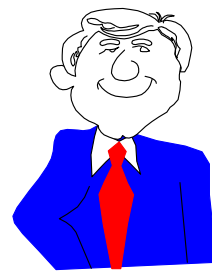
学校情報・生活情報・勉強情報満載！



あむーる

島根県立松江北高等学校 14R学級通信 第2号

No.2



『理想の職業』を追いかけなさい...

2年生になって約2ヶ月、そろそろペースもつかめてきた頃だろうか。勉強で疲れも出始める頃だろう。健康管理にはくれぐれも注意してもらいたい。いろいろと悩みも生まれ始めていることだろう。一番大きな悩みはなんと言っても「勉強についていけるだろうか?」ということだろう。ここに高校生の勉強の悩みの調査結果があるので紹介する。みんな同じ。自分だけが苦しんでいるのではないことがお分かりいただけるだろう。

■高校生の勉強の悩み (%)

① どうしてこんなことを勉強しなければいけないのか、と思う。	56.8%
② どうしても好きになれない科目がある。	56.5%
③ 努力しても成績が思うように上がらない。	21.9%
④ 世の中に出てからもっと役立ちそうな勉強がしたい。	51.1%

授業のはじめに人は必ず「どうして勉強するの?」と聞くことにしている。「大学に行きたいから。」という答えが帰ってくる。「じゃあ、どうして大学に行きたいの?」とたまたみかけると、答えられない生徒が多い。実はここが一番大切なポイントなのだ。

人は ① 自分の好きなことをやり、② メンが食えて、③ 人から感謝される、そういう人生を理想としている。これは竹内 均氏(故 東大名誉教授)の受け売りだけれども、進路指導の核心をついた言葉だと思うので、ことある度に紹介してきた。僕は英語が大好きで、教えるのも大好きだ。それで給料をもらい、生徒諸君から感謝の言葉を頂くこともある。好きな英語を書いて、読んで、印税やら原稿料をいただき、いろんな所へ出かけて行って話を聞いてもらう。喜んだ人から頭を下げてもらえる。だから毎日が楽しい。楽しいからもっと高い目標を目指すことができる。そんな職業とは君たちにとってどんなものだろうか? しっかり追求することだ。そのために勉強する。人はそんな君たちの応援をしたい。自分の夢を追いかけなさい!

悩みはみんな同じ!!

3月の学問探究講座で「なぜyをiに変えるのか?」という話題を問題にした。規則だから覚えなさい、という指導しか受けてこなかった人にはこのルールはいつまでたっても人事でしかない。「/i/という音は、語末にy、語中にiという使い分け」をしていることに気がつけば何のことはない。語末にiを持ってくと発音が/ai/なのか/i/なのか判別に苦しむことになる。そこでこのような棲み分けが始まったのであろう。

carry → carried	study → studied
try → tried	happy → happier
beauty → beautiful	city → cities

では先生、studyにingをつけるとき、yをiにしてstudyingとならない理由は? ingの前にまたもう一つを置くわけにはいかないでしょう。何事にもちゃんと理由はあるのですね。

? なに、yをiにしるだって?

み～んな悩んでいる!

国立大学合格者100人以上の高校に在学する2年生1043人に対し、アンケート調査したところ、次のような結果が出ています。「勉強について次のように思うことがありますか?」この調査によれば「努力しても成績が上がらない」「自分は頭が悪い」ではなく、「努力できないで困る」と思う高校生が大多数というのが実態なのです。また6割が「勉強の仕方」について悩んでいることが伺えます。

- こつこつ努力できないで困る。 65.0%
- 上手な勉強の仕方がわからない。 59.7%
- 覚えなければいけないことが多すぎる。 55.6%
- どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う。 53.8%
- どうしても好きになれない科目がある。 50.8%
- 世の中に出てからもっと役立ちそうな勉強がしたい。 50.1%
- 勉強する科目を自分でもっと選択できるといい。 32.6%
- わかりやすい授業にして。 29.9%
- 科目をもっと減らして。 28.7%
- 先生は成績にこだわりすぎる。 26.7%
- 努力しても成績が思うように上がらない。 19.9%
- 親の期待が大きすぎる。 19.8%
- 自分は生まれつき頭がわるいのではないかと思う。 19.1%
- 良い参考書や問題集が見つからない。 14.7%



みんな同じような悩みを抱えながら、日々苦勞して勉強に部活に励んでいることがわかりますね。これを自分なりの工夫で乗り切ってこそ、初めて栄冠が勝ち取れるということを覚えておきましょう。

昨年北高で講演してもらって大好評だった屋木達信(近畿大学)さんによれば、そんな中で伸びる生徒には一つの共通点があるという。目標が明確に決まっていて、そこから逆算して志望大学や受験勉強、不得意科目などのことを考えている、つまり「上→下」の流れで物事を捉えているというのだ。逆に失敗する生徒は「下→上」今のことばかりに右往左往し、あれもいい、これもいいと行き当たりばったりの生活を送るという。これは重要な指摘で、僕が北高の1年生で担任した生徒で数学の全くできない生徒がいたが、どうしても薬学部に進学して薬剤師になりたいという強い目標があったので、夏休みに頑張って本当に驚異的な数学の伸びを見せた。現在、薬学部で勉強中である。

なお、屋木さんの講演は保護者のみなさんに大好評だったので、今度は生徒のみなさんにも聴いてもらえるように現在交渉中とのことです。楽しみです。むむむむむむむ

名言

自信でね、誰でも持っているはずなんだよ。だってたかだかの自分でしょ。限界があるんだから。だから限界に挑もうとする。見えない自分におびえていないで、自分を確かめに行ってやる。そうこうしているうちに、限界を越えてしまう時もある。精一杯という意味で、僕は自信を持っています。(さだまさし)

竹林滋先生を偲ぶ



去る3月11日に『ライトハウス英和辞典』の責任編集長**竹林 滋**先生（東京外国語大学名誉教授）が肺炎でお亡くなりになった。前日の10日に奥様が食卓で脳溢血で亡くなっておられ、2日連続でご夫婦が他界されたことになる。先週5月15日（日）東京のリーガロイヤルホテル（先生の大好きだった素敵なホテル）で行われたので行って



きた。先生は音声学で日本ナンバー1の学者である。会場では**東 信行**先生や**中尾啓介**先生（島根県津和野町出身）や**岡田穰介**研究社前辞書部長（10年ぶりの再会）と先生の思い出話に花が咲いた。

初めて東京に呼んでもらったのは、20代中頃だったと思うが、当時高校のような汚い**東京外国語大学**の竹林研究室をお訪ねした。先生は気さくな方で趣味のカメラと一緒に写真を撮りましょう、と言われ記念撮影からお話が始まった。外語大を案内してもらいながら、「この方がスラブ語学でNo. 1の**千野栄一**先生ですよ。この方が教育学の**若林俊輔**先生です」と、語学を志す者にとってあこがれのスターをご紹介いただく。お話がまとまると、「池袋に超高層ビルが出来ましたから一緒に行きましょう」と**サンシャイン80**に連れて行っていただいた。着くと長蛇の行列で、長時間待たされた後で、高速エレベーターであっという間に最上階に着いてしまった。至れり尽くせりのもてなしで、高級ホテルにも泊めてもらい、先生とおつきあいが始まった。

僕の仕事は『ライトハウス英和辞典』の全ての「**語法**」「**類義語**」に関する記述を正確に書き改めるというものであった。先生は疑問な箇所があるとすぐお電話がかかってくる。先生の声聞く度に、気合いが入り「**頑張らねば!**」と思うのだった。「**〇〇を調べて下さい**」と宿題をいただき、すぐそれを多くの資料に当たって、解答を作り返送する。先生はお話が大好きで、要件が終わると、いろいろな話をして下さる。長電話になることもたびたび。「**松江に車体が傾く(?) 電車が走っているでしょ。あれに乗りたいんです。**」とおっしゃられたので、外語の先生方を松江にご案内し、一畑電車に乗ったのもいい思い出である。先生は旅行が大好きであった。

先生は僕の仕事を高く評価していただき、待遇がどんどんよくなっていった。東京に行くたびにいろいろなお話を伺い、先生の「理想の英和辞典」に少しでも貢献出来ればと強く思ったものだ。「**宝島事件**」と呼ばれるトンデモない批判が巻き上がった時も（裁判で勝利したが、あれだけおもしろ可笑しく騒ぎ立てた新聞は一切伝えてくれなかった）、記述に正確を期するために僕の知り合いの**D. ボリンジャー**博士（アメリカ言語学会会長）を編集顧問にお招きして全ての記述をチェックしていただく。ついてはお前が橋渡し役を務めるように、とのご指名であった。アメリカ英語は**ボリンジャー**博士、イギリス英語に関しては**R. イルソン**博士をお招きして、僕が連絡係を務めることになった。学習辞典の世界では画期的なことであった。広島でイルソン博士からいただいた紅茶のおいしさは今でも忘れられない。竹林先生は辞書を作るだけではだめで、それを支える周辺教材も充実させないといけないという持論の持ち主で、「辞典の効果的な使い方」を書くようにとのご指名で、2冊の本を書かせてもらったのもいい勉強になった（『英語の辞書指導』『ライトハウス英和の活用法』（共に研究社）我が国初の指導書）。

心臓疾患で倒れた時にも、何人かで八王子の先進医療センターにお見舞いに行った。心臓のバイパス手術の内容と先進医療への信頼をお元気に語られたのでホットしたものだ。先生と全く同じ手術を自分が受けることになる（5年前）とは夢にも思わなかったが…。毎年秋になると二十世紀梨をお送りして喜んでいただいていたが、今年からもう送ることも出来ない。来年は**岩崎研究会**（**岩崎民平**という東京外語大の名物教授の還暦を祝い学習辞典を作って差し上げたメンバーの勉強会）創立50周年の記念すべき年に『ライトハウス英和辞典』の最新第6版を作って、竹林先生を喜ばせてあげようと企画していたのも見ていただくことはできなかった。先生、いい辞典を作りますから、天国でご覧になって下さい。ご冥福をお祈りします。先生、安らかに眠りください。合掌。

「お別れの会」の会場ロビーで朝尾幸次郎先生（立命館大学教授）にお会いした。朝尾先生はコーパス研究の日本の第一人者。以下はその会話のあらまし。

朝尾：「やあ、八幡さん、お元気でしたか。以前**increasingly**という副詞は「悪い意味で使う」とおっしゃっておられましたが、その後何か分かりましたか？」

八幡：「あれはスウェーデンのBacklundという学者が本の中に書いていたのですが、最近受験の仕事で忙しくて、確認できていません。竹林先生はいい意味で使うこともあるので辞書に載せるには慎重に、とおっしゃっておられました。」

朝尾：「私も八幡さんの指摘を受けて、コーパスにあたってみました。きれいな形でそのような傾向は出てきませんでしたね。ただ「完全に」という意味の副詞で**perfectly**はよい意味の文脈で、**totally**は悪い意味の文脈で使われることがはっきりとコーパスで確認できました。」

八幡：「それは面白い観察ですね。勉強になります。帰ってもう少し突っ込んで調べてみます。ありがとうございました。」

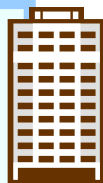
朝尾：「僕ももう2年で退官です。もう勤めは辞めて、ゆっくりと遊ぼうと

思っています。」

朝尾先生との一問一答



東京散策



これが僕の大好きな文房具店、銀座の**伊東屋**（8階建て）。外国の文房具に強い。先日も大量に買い付けてきた。クリップやスタンプの珍しいものがいっぱいある。紙類も素敵な紙質のものが置いてあり、ここでしか手に入らないものが多い。

茅場町に「**マジックランド**」という伝説のお店がある。小野坂東というマスターのお店で、その名物店長が奥様。ぼくたちは敬意を込めて「**ママさん**」と呼んでいる。クロスアップマジシャンの前田知洋さんが東京電機大学時代にバイトしていたお店である。海外のマジシャンが来日するとまず行くのがこのお店。



東京駅八重洲南口に4月に「**東京ラーメンストリート**」がオープンした。地下に降りてみるとすごい行列であった。喜多方ラーメンを食べたくて行列に並んでみた。期待はずれであった。



やはり本場「**坂内食堂**」のレベルは高いと改めて感じた。最近松江女子高の近くの「**をっちゃんラーメン**」に立ち寄ったが、これが美味しかった。「**花咲**」のご主人がご病気で長期休業しているので、いいお店を見つけたと喜んでいる。